

【花き】の【長雨・日照不足】対策について

<6月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【花き全般】

(1) 予想される被害状況

- 日照不足による茎葉の軟弱徒長。
- 灰色かび病や軟腐病等の蔓延。
- キク白さび病。
- ホオズキでは細菌斑点病の多発生。

(2) 事前対策

- ① 雨よけ栽培では晴天時以外は遮光資材等を取り除き、できる限り日照を確保するとともに施設内の換気等を図り湿度を下げる。
- ② 鉢・苗物類では、十分な鉢間隔をとって軟弱徒長を防ぐ。
- ③ 定期的な予防散布を徹底し、下葉を取り除いて風通しを良くする。
- ④ 発病、感染源となる褐変した下葉等は事前に取り除いておく。

(3) 事後対策

- ① 日照不足時は葉害が出やすいので、農薬散布に当たっては使用基準の範囲で、できる限り低い濃度とする。
また、特に軟弱な場合は、晴天が2日以上継続した後に防除を行い、葉害の発生を最小限に抑える。
- ② 感染源となる罹病葉や罹病株は速やかに撤去する。
- ③ 降雨時など湿度の高い日の摘葉、腋芽取りは、軟腐病が発生する危険性が高くなるため行わない。
- ④ 日照不足が続いた後の晴れ間は、強光線で生長点や葉の焼けが起こりやすいので、遮光、換気に気を付ける。
- ⑤ 天候回復後は、葉面散布等必要に応じた栽培管理に努め、草勢の回復を図る。